THE LADIES' JOURNAL OF EDUCATION.

明治十九年七月五日

定價金四錢

# 女學雜誌

第二十九號

毎月三回發行

績文舍



Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

# 目録

●（官報）●（女學叢誌）我國の婦人●（中外新報）十二件●（學芸叢談）カリー氏幼兒教育學○理學一斑●（對譯）●（列女傳）阿茶の局●（和文釋解）つれ〴〵草●（新作物語）瓜守の妻（春のや主人）●（雑記）西洋女禮一斑○女風改良の論説●（家政要報）七件（御伽草）無言會○問題答式●（寄書）水中の空氣○詩歌數首

## ◎官報

明治十九年六月廿一日

○文部省令第十二號

勅令第十六號諸學校通則第四條に基き小學校教員免許規則を定むると左の如し

明治十九年六月廿一日　　文部大臣森有禮

小學校教員免許規則

第一條　小學校教員免許状ハ師範學校卒業生及び丁年以上にして小學校教員學力檢定試驗に及第したるものに之を授與するものとす○第二條　小學校教員免許状ハ普通免許状地方免許状の二種とす○第三條　普通免許状ハ文部大臣より授與し全國に通じて有效のものとす○第四條　地方免許状ハ府知事縣令より授與し其管轄地方よ限り有效のものとす○第五條　普通免許状ハ無期有效のものとそ○第六條　地方免許状ハ有期若くハ無期有效のものとす○第七條　有期の地方免許状ハ五箇年を以て一期とす期滿る毎に勤務の經歷に依り適任のものと認むるときハ更に免許状を授與そるものとす○第八條　有期の地方免許状を有し五箇年以上勤務のものにハ其經歷に依り適任のものに限り無期地方免許状を授與するものとす○第九條　普通免許状ハ高等師範學科卒業生若くハ地方免許状を有して五箇年以上勤務し學術授業とも超衆のものに之を授與そるものとす○第十條　有期の地方免許状ハ尋常師範學科卒業生若くハ小學校教員學力檢定試驗に及第したるものに之を授與するものとす○第十一條　小學校教員學力檢定試驗ハ尋常師範學科及び其程度に據りて之を施行すべし但し一科若くハ數科に限りたる教員學力檢定試驗も本文に準ずべし○第十二條　左の一項若くハ數項に觸るゝものにハ免許状を授與せず又既よ授與したるものと雖も之を没收すべし但し本文免許状を没收したるものあるときハ府知事縣令より其族籍姓名幷に事由を具して文部大臣に開申そべし。一新法に依り輕重禁錮以上の刑に處せられ若くハ信用又ハ風俗を害する罪を犯して罰金の刑に處せられ若くハ監視に付せられたるもの但し信用又ハ風俗を害する罪にわらさるものを犯し罰金を納むること能ハずして輕禁錮の刑を受けたるものも此限りに非す。一賭博犯處分規則に依り懲罰に處せられたるもの。一身代限の處分を受け未だ辨償の義務を終へさるもの。一荒酬暴激等總て教員たるの面目に關する所行あるもの。一舊法に依り懲役若くハ禁獄若くハ鎖錮の刑よ處せられたるもの但し贖金罰金を納むること能ハずして本文の刑を受けたるものは此限りにあらず。一前項の刑に處せられ存留養親老少廢疾婦女等の故を以て收贖を聽されたるもの○第十三條　前條の一項若くハ數項に觸るゝものと雖も府知事縣令に於て特に小學校教員たらしめんとするときハ其族籍姓名並事由を具申して文部大臣の認可を經べし○第十四條　小學簡易科教員及小學校授業生免許規則ハ府知事縣令之を定むべし○第十五條　小學校教員學力檢定試驗を受くるもの及び小學校教員免許状を受くるものは其手數料を納むべし○第十六條　小學校教員學力檢定試驗に係る細則ハ府知事縣令之を定むべし○第十七條　小學校教員免許状の書式左の如し（免許状書式略す）



Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

## ○我が國の婦人

我が國の婦人の智惠と學問とに乏しくして常に區々たる小事にのみ耳目精神を奪はれ人間たるもの〻通常知らねばならぬ事柄まで恬然として辨へざるとハ近頃世の人の皆口やかましく攻擊する所なるが我が日本の婦人なればとて古より斯く淺ましき有樣なりしにはあらず古ハ男女同權なんどいへる言葉ハなきも其道理は知らず識らず人々の身に行ふ所となり婦人なればとて決して男子の玩び物のやうなるとハなかりしなり婦人の位地極て低かりつる邦國に在ては女主をたつるとなく男子の世を繼ぐべき者なければ女子ありと雖も其血統既に絕えたりとして他より君主を迎へ立つる習なるに我國には古より女主ありて萬機の政を統べ給へると毫も歐羅巴諸國に異ならず是れ女權の古に盛んなりし證據中の最も見易きものなり其頃の婦人ハ唯衣服の裁縫、臺所の掃除、下女下男の使ひ廻しなどのみを職業とハせずして種々の學藝をも研究し凡そ男子の知れる程の事ハ皆之を知らざるハなきの勢なりき左ればにや婦人にして詩歌文學の名人中に加はれる者甚だ多く小野小町、清少納言、紫式部等の芳名ハ如何なる片田舍の草刈る童と雖も之を知らざる者なく三寸の筆を執て我れこそハ歌人なり文人なり學者なりと世に誇れる人々ハ斗もて量り車もて載するほど多かれど我が國の文字もて書ける書籍の內に源氏物語枕の草紙などいへる書籍ほど文章といひ趣向といひ巧みなる者ハあらじ而て其作者ハ男か女かと尋ぬるに三尺の童子も知るが如く何れも婦人の彤管になれる名書なり歌よみ文作るすべを習へる男子ハ數限もなきまでに多くありながら復た一人の源氏物語、枕の草紙など云へる書物に似寄たる書籍さへ作り出せる者なきハ男仲間の恥辱にあらずや女子の作れる書物のみ世に持て囃されて男子の作れる書物とてハ是ぞと見るべきほどの者なきハ婦人仲間の名譽にあらずや昔の婦人ハ斯く男子の及ばぬまで智惠もあり學問もありたるに今の婦人ハ何ゆゑ無智無學にして男子の奴隸たるとを甘んずるやと尋るに別段の仔細あるにあらず唯學ぶと學ばざるとの別あるのみ今の婦人も學べバ皆紫式部清少納言たるを得べく學ばざれバ一生男子の奴隸と爲り人間眞誠の快樂を知らずして草木と同く朽敗んのみ世の御婦人方ハ何もゑなれば紫式部、清少納言たるとを期せず却て高尾浦里たらんとを望み給ふや





Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

# ◎中外新報

○行幸　聖上にハ去る廿八日陸軍士官學校へ行幸かせ生徒の卒業証書授與式及び技術等を天覽あらせたるやに承はる

○婦人の服制　去る十七年中婦人服制の儀につき宮内卿より其の向へ内達の趣もこれありしが自今は場合により皇后宮に於ても西洋服裝御用ゐ遊ばさるべきにつき皇族大臣以下各夫人は朝儀を始め禮式相當の西洋服裝随意に相用ふべき旨去る廿三日伊藤宮内大臣より皇族并よ大臣勅任官　有爵者　麝香間祗候等へ通達せられたるよしに申すと去る廿九日の日々新聞に見えたり

○愛生社　海軍出仕の方々の夫人令閨が結社せられたる愛生社にても今月第二の日曜日よ芝公園の水交社に社員相會して社長幹事委員等の役員を選擧せらるゝよしにてその社長には多分有栖川大尉宮の御息所を推選せらるべしと云ふ

○裝飾の注意　女教員および女生徒中浮華の裝飾をなし異狀の風体をなすは教育上はなはだ不都合なれば精々質素を旨とし心得違ひなきやう注意ありたしと文部省視學官より各府縣へ通牒せられたるよしなるが近頃女學校生徒らしきが白のハンケチを襟に巻き附けたるを見受けること屢々ありこれらも是皆しからずと云ひがたし

○卒業証書の授與　去る廿九日東京府廳の掛員は京橋區日吉町のレース教場に出張してこのほど卒業したる生徒にその証書授與の式を執行せられたるよしに聞く

○頌榮女學校　芝區白金猿町に住せるゝ岡見清致氏も有名の財産家且つ教育熱心家にして曩にその次弟夫婦と末弟とを海外へ留學せしめ自分も資費を抛ちて頌榮學校を二本榎よ設立しその校内よ女學校をも設け米人の女教師二名を聘し英語裁縫等を教授なし居たるに追々入學者増加して校内手狹になりたるため今度一層女子の教育を盛んにせんと猿町なる數町歩の畑地を潰して女學校を新築し工事落成したるにつき去る廿六日開校式を行ひ寺嶋宗則大鳥圭介の兩君および福澤先生等臨場して演說もありまた夜に入りては幻燈會を催はし生徒および一般の人々へ縱覽せしめられたるよし(時事新報)

○衛生演說　私立衛生會にては去る廿七日の夜は赤阪區小學校よおいて衛生演說會を開き成るたけ婦人小供等に傍聽せしめんとて鬮引にて白地の反物風呂鋪地手拭等の景物を出したる由にて去る一日には麹町區小學校にて開會せしと云ふ



Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

○運動　東京倶樂部にては去る二十六日午後五時ごろより内外の貴顯紳士およびその夫人令閨方が集會せられ鹿鳴館の芝生にて運動會を催ほされ陸軍樂隊の奏樂もありたるよしなるが斯る運動會は御婦人方には殊に好ましきことにて体育の必要なるは今更らいふまでもなく諸學校にては体操の科を設け頻りに体育に注意あるなれば今よりのち追々盛んに赴くべけれどもすべて日本人は体育の事にも少しも意を用ゐず殊に婦人にも身体運動のこと更らになしといふも可なるべし歐米にても老たるも若きも男女打ち雜りてフートボール、ベースボール、クリケットなどのごとき種々の遊戲をなすの風盛んにして婦人なればとて我邦の如く内にのみ閉籠ることなく近郊に遊歩する場所も甚だ多く例へば紐育ならばコニー嶋に至り海水浴をなし砂濱を散歩し烟花を觀奏樂を聞きながら行厨を開く等の事をなし或ひはハーレム河に至りて舟を漕ぎ或は中央公園に遊歩する等また倫敦にありてはハイドパーク公園に至り或はリチモンドおよびキユー植物園、水晶宮、グリンウイッチ、エピングの森林等遊歩する場所甚だ多く常に出遊する人の絶ゆることなけれども我が邦の婦人は家中にのみありて身体の運動をなすこと絶えてなく甚しきに至りては手廻はりの瑣々たる用事にも一々侍婢を召使ひ朝起きてより便所に行くの外は坐したる所を動く事なく重きものは箸より外は持ちたる事なしと云ふがごときものも之れあるべし少しは東京倶樂部會員の夫人令孃方を見ならひまた歐米人のごとく玉投げなどの遊戲をなし殊には上野淺草招魂社その他所々近郊へ出遊することをなしたらんには啻に身体の運動のみならず随て知見を廣むることも少なからざるべし

○婦人智識交換會　工部大學を卒業したる學士中村貞吉藤本壽吉その他諸氏の夫人方は去るころより婦人智識交換會といへるを發起し毎月一回輪番に各自の宅に集會せられ追々會員も増加する由いとめて度ことにぞある

○緬甸國女子の風俗（本年六月廿三日官報摘錄）　緬甸に於て婦女子が自由を享有するとの大なるは決て東洋諸邦中その比を見ざるところなり凡そ婦女子が人に嫁するに臨み携帯する所の金錢その他の物品はその子または繼嗣者の利益を謀るが爲めに之を特有しその後日離婚に遭ふときは右の外婦が結婚中自己の勞力または繼嗣に由りて得たる所の財産をも併せて携へ歸るものとす惟ふに此の如きは歐洲中最も開明なる人民の間にも吾人の未だ聞見せざる所なり又緬甸の婦人は随意





Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

にろの好愛するところの男子ニ嫁し爾後あるひハその夫の爲に怒を惹き起すことあるときハまた適意に離婚をなす蓋し離婚の方法ははなはだ簡易なるものにして即ち婦人みづからろの居村なる長老の許にいたり離婚の理由を訴ふその理由正當なれば長老たゞちにこれを許諾すべしまた婦人の教育ハ男子におよばずといへどもろの理事措辨のみちニ長ずるハ實に驚くべし(以下次號)

○芝居便り　市村座は一番目朝顔日記中幕ハ男重の井二番目ハ八百屋於七にて來る十三日頃開場○中村座ハ去る一日出揃ひ老優仲藏が一世一代の舞臺納めと大阪上りの三優の技倆を見んと引續き大入り○中嶋座ハ一日より外題を指換え一番目一谷嫩軍記二番目時世享保大岡膀大切淨瑠理ハ日高川渡舟の場にてすぐ二日ニ出揃ひ○春木座ハ四日より指換え一番目彦根騷動二番目小三金五郎等なり

○今月遊歩場　合歡花(綾瀨)納凉(兩國川開大川邊不忍池麻布古川邊芝浦)瀑布(王子目黑不動角筈村)釣堀(向嶋淺草田甫本所津輕邊深川黑船稻荷小石川春日町)蓮(木母寺不忍池溜池三圍)蟬(染井入谷)虫聞(青山十二社)松虫(御茶の水、王子)鈴虫(外櫻田堀端)轡虫(根岸大塚の原巣鴨庚申塚)



# 學藝叢談

## ○カリー氏幼兒教育學

### 第三章　幸福の定則

〔第十四節〕幼年の間ハ自然に備ハりたる快樂の時期たる事

生活および健康の定則ニ次ぎて幸福の定則を考究せざるを得ず幼兒期ハ乃ち幸福のときなるがゆゑこの二つハ相互ひに密着して離るべからず幼兒期ハ乃ち快樂の時期たる事ハ幼兒の至るところに種々樣々の草花を咲かしめある等ミな自然の意に出でたるものなり成人したるものハ自己の意に隨ひて快樂を選ぶことを得るといへども小兒にありてハろの事をなし能ハざるがゆゑに自然がこれに種々の快樂を與ふるものと見え何ごとによらず小兒の感覺を起さしむるものハ一として快樂とならざるものなく實に小兒の幸福ハ澤山にあることとなりがタ〳〵音のするものを好み藁端などを以て物をつゝき種々の色を好み身態の變る毎にその樂を更ふるものにして小兒の生活ハいかにも廻轉燈の畫を見るがごとし試に小兒を獨り居らしむべしろの周圍にありて手の届くところのものハ石にでも木にてもあるひハ紙にてもこれを取りて種々樣々に翫び人の



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

助けを借らざるもろの快樂はいかばかりならん郊野に出で或は街衢海濱河邊森林等に連れ行くときは目に見るもの手に觸るもの一々快樂となり聲を發して喜び遂には傍らに居る大人までも共にその快聲を發せしむるに至り萬事萬物一として快樂を與へざるものなしまた他の小兒と居らしむるときは相互ひに他の翫弄物を翫ふと同じ取扱ひをなし最初少しく馴れざるも直ちに結合して互に一つの書物を讀むなど誠に親密となりかく遊戯する最中にその群をはなし他へ連れゆくときは尚ほも連れ行く人の手に倚り衣服を持ち或は飛び或ひは踊りて止まざるより遂にその快樂を奪ふに忍びざらしむるものなり若し小兒をして不良なる事情にあらしむるときは成人の後に不幸を來すべし塵埃に汚れあるひは多病にして脆弱なる小兒といへども尚ほ自然の快樂を樂まんと勉むるものにて身に襤褸を纏ふは成人となりては厭ふことなれども小兒は更らにこれを厭はずして快樂を覺え我々はその外貌と感情との不相當なるに驚くといへどもさらに意とするところにあらざるは實に幼兒幸福の一大定則たるを感ずるなり

○理學一斑

〔第八節〕自然の秩序ありて偶然の事決てなき事　前節に述べたるが如しと雖ども自然の事を考究するに當り必ずまづ或る出來事に一定の秩序ありて或る原因はいつも同じ結果を與ふるとを知り得らるべし大陽はいつも大空の一方より出て他の一方に沒し月も亦同一の秩序と同一の時期とを以て廻轉しまた或ひは我々の住する地球の平地より下に沒せざるの星もあり季候も年々定りて水は卑き方に流れ火は燃るものと定り植物は種子より生じてまた種子を生じ動物は生れてより追々成長して遂に死に至るまで子々孫々ろの順序に異る所なし斯の如く「自然の秩序」及び事物の間に生ずる原因と結果との關係に定則ありといふ考への漸々人の心に生ずるものにして此秩序あるに隨ひ事物の理を解そる事なるべく之を解せざる間は何事も偶然に成り不意の出來事なりと思ふものなり

然れども益々自然の理を考究する時は只何事も不順序にして混雜極りたるがごときも愈々廣くその秩序あることを知り遂にはいかなる事物もろの原因なくて偶然のことなりと思ふものはこれなきに至るべしされば彼の事は偶然ありこの事は不意の出來事なりといふは其原因を知らず即ち何故に事の起りたるかを知らずといふに同じ茲に偶然或は不意の出來事抔といふは無識無學の別名なりとは知られたり（以下次號）





Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

## ◎對譯

〇泰西箴諺の直譯

（甲）㊀時㊁而て㊂潮時（ハ）㊃人（ニ）㊄向て㊅留る㊆一も無し

（乙）㊀能く㊁始めたる（ハ）㊂半㊃爲され（テ）㊄ある

## MAXIMS & PROVERBS.

### 泰西の箴諺

（甲） Time and tide stay for no man.
㊀ ㊁ ㊂ ㊅ ㊄ ㊆ ㊃

〔意譯〕時と潮時は人の爲に留まらず

（乙） Well begun is half done.
㊀ ㊁ ㊄ ㊂ ㊃

〔意譯〕善く始めたるは半ば爲したるに同じ

### KANE NO CHIKARA KISHA WO HASIRASU.

Shosei futari-zure nite aru *station* no kinjo ni itaritaru toki, jōki-bue no oto takaku kisha no hassi kereba, hitorino shosei toute ieru niwa:—kisha wa nani ga yukasimeru node arō? Ima hitori no shosei kotaete: —"jōki no chikara yo!" to ieba; mae no shosei:—nani *unchin* sa!

## ◎列女傳

〇阿茶の局

阿茶局はもと武田家の家臣飯田久右衛門の女にして名を須和と呼びなし今川家の家臣神尾孫兵衛久宗の妻たり德川將軍家康公いまだ幼年にて今川家へ人質となりておはしけるとき孫兵衛夫婦あつく禮を以てかしづき保護し參らせけるそのうち永祿三年に今川義元織田信長と桶峽に戰ひて敗死し孫兵衛もともに打死なしたりければせんかたなくて一子猪之助とゝもに甲州なる實家に歸り居たりしに天正十年に武田氏もまた滅亡し家康公甲州へ至り玉ふときゝて須和は猪之助を伴ひその路次に迎へまゐらせみちの傍らに伏しありしよしどもを述べ親子の薄命をかこちあはれ舊緣もて召仕ひ給ひてよと歎願せしに公もそゞろに舊情を覺ほし出され遠州へ罷り越し奉公致すべしとぞ命せられける元來婦人ながらも資性鋭敏にして志慮深くよく物に耐ふるの性なりければ追々に用ゐられ老女にまで昇進し是より阿茶局と稱しけるのうち慶長十九年大坂冬御陣のときに家康公より秘密の軍機を承はり御使として城中へ赴き大藏局常光院等に面談し屢ろの間に往復して





Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

媾和のとゝのひたるは阿茶局の力与りておほきに居るとぞ聞えける實に一婦人の身を以て敵の城中に使ひし君命を辱かしめずして彼れの禍福を説き我の旨を諭し多くの人の身命を救はんとすることはなかなかに丈夫も及ばざるの智勇あるものならずてやは叶ふべきされば東福門院御入内のときにも御母代となりて上洛し慶賀の御式に与りそのとき従一位まで叙せられけるその子猪之助もまたなかなかの器量ありて神尾五兵衛と称し二代将軍の近習を勤めのち刑部少輔に任せられ下総國金近村の地三千石を賜はり孫宮内も千石の地を賜はる國亡び夫を失ひ親子流離の際に身を起し斯く子孫の光栄ふるに至るも全く媾和が賢なるにこそよれ

四百五十九



Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

遠山某の家に傳ふる黒鐵の肩輿は阿茶局が城中へ使を命せられたる時矢石を防がんが爲とて堅牢く造りしものなりといへば之を以ても當時屢々危險を冒したる勇氣のほど予思ひやられぬ戰國の世に生れて並々の女ならんにはいかでか斯く君に仕へて重任を受け我子を薫陶して夫家を起さしむる事の能ふべきぞ須和が如き者をこそ男子にも優れりとはいふならめ

○船長マショルレの妻

身は女子たりと雖も志だにある時は何事をなせばとていかで男子に讓るべき昨年九月廿八日の事なりとか英國の商船チフテン號といへるは印度のカルコッタ港を解纜したりしが此船の船長をマショルレといひて學問技藝とも具備はりたる人なりければ號令嚴かにして規則よく行はれ船中の事は只其手足を動すに異ならざりしも不幸にして航海中俄に劇熱を發し病の床に就きたるまゝいつ起くべきとも見えざれば船中の狼狽おほ方ならざりし茲に船長の妻女といふは二十年前に嫁せしより獨り陸地に止りて雨の夜風の朝にも夫を案じ暮さんより寧そ海上に伴ひ給へとて此年月船中にありければ此時も夫の枕邊にて看病なしつゝありしが船長は苦しげなる聲にておん身日頃我が爲す事を見知りたらん我が病はいつ癒べきとも知られねば今より我に代りて號令し何れの港にても早く船をば着けてよと云ふにぞ妻は忽ち承諾し直ちに甲板上に走り出我こそは今より夫に代りたりと萬の事を差づなし尚は看病にも怠らず難なく船をサントヘレナに着けたるは十月十日の事にて急ぎ良醫を迎へて夫の病を療じたりとなんこの妻女の貞節と云ひ志氣といひ天晴世の婦女の龜鑑にぞある

## ◎和文釋義

### つれ〴〵草

橘　道　守　述

#### 第十六段

神樂こそ。なまめかしくおもしろけれ。おほかたのもののねには。笛。篳篥。つねにきゝたきは琵琶。和琴。

〔全旨〕神樂の面白きをいひて。次に兼好自ら心に適ひたる樂器を擧たるなり。

〔語釋〕神樂　此神事は天照太神。天岩戸に入坐したる時。天宇受賣命。俳優を窟前になしたるに濫觴て。內侍所に限る事なりしが。後世諸方の神社にも。行ふことゝなりしより。禁裏の御神樂に對て。諸社のをば。里神樂といふ。冬にて夜の神事なり。



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

また夏するを。夏神樂といへり。さて神樂と書て。古はかみあそびを稱へしを。いつの頃よりか。神樂と字音にいひそめけん古今六帖の題にかくふと擧ぐるを見れば。是も古きことなるべし○なまめかし　嬌の字を訓て。色もて媚るやうなるとが元にて。轉りては打和らぎ。風流なるとをいふ○笛　横笛なり海人燒殘。青葉。蛇逃。蟬折等は。希世の名品なり○篳篥　笛の類なり。觱篥とも書けり。篳篥に大小ありその管は山城國鵜殿の蘆にて作るを上品とす○琵琶　本胡中より出て。馬上にて皷く樂器なり。本朝中世は。盛に流行して。玄上牧馬等の名物あり。源氏物語明石巻に。入道びはの法師になりて。いとをかしうめづらしうて。一つ二つ引出たり云々とあり○和琴　やまとことなり和名抄云。日本琴。體似箏　而短小。有六絃。俗用倭琴二字。云々。とあり。此器は。日本武尊。弓六張を雙べて。始て作りたるなり。今の製も六絃ありて。弓を張りたるが如し。是れ本朝樂器の初なり

〔講義〕御神樂は面白きものなり。また樂器は種々の別あれどその中に横笛。篳篥は面白し。その形といひその音といひ優美にして。常にきゝたしと思ふは琵琶和琴の二品なりとの意なり

## ◎新作物語

春のや主人白す

此たび餘義もなく引出されて本誌の欄内に立現はれ見も知らぬ方々のおん目にもくりなう掛ることとなりぬ何の爲に立出たるぞと最初は不審しう思ひたまはん決して怪しうないものでござる所謂「續き物」を綴らんが爲なり就ては豫め讀者諸君に斷り置かずしては叶ひがたき事あり總じて雜誌などゝ申すものは原來賣るが爲めに出來たるもの故兎角に愛嬌と人氣が大事なり人氣に叶ふやうに綴らざれば。時好に適ふやうにものせざれば如何程高尚なる論旨にても。何程結構なる文章にても到底邪广ものにさるゝとの事也然るに己れ事無愛想者にて我身ながら惡くいへば偏窟者なり兎てもどの樣に頼まるればとて強て我心を曲げ撓めて讀者の好尚に適ふ樣に。澤山賣れる樣に。人氣に叶ふ樣に綴ることできず蓋し偏窟なる爲のみにも非ず商利に疎々しき故のみにも非ず美術を商賣の翫具にして桑役濫使するに忍びざればなり左れば時々にはお氣に障るヒヨンな事柄をも寫し出すべくいやに艶氣のなき筋をもかくべし尤も短篇の小説なる





Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

故人情といひ風俗といひ共に精細を寫し難からん之は是覺悟の前なり讀む人々も之を察して大にその望を屬し給ふとなく世間の新聞紙にありふれたる所謂「續物」をもて見給ふべし「予が小說は政事小說なりと歟云々かやう〳〵の寓意ありとの」大層賣藥の能書めかして長ゝ口條いふ著述家もあれども夫はゑらい人のいはるゝ事己れ如き這出し者はヤッと情態を寫すさへも七轉八仆する思ひある故中々寓意迄は手が屆かずほんの感銘せし所を集めて禿筆の走るまゝに〳〵玆に一編をものするなり若し夫大屋さんの欠伸にも小僧の居眠にも强て探鑿せば因果はありけり已れの幼稚なる物語にも或は之に似たる因果はあるべし寓意好きは寓意ありと思ひて見よ無しと思ふ人は無しと思ひて見よ但し此拙劣なる一小篇にして萬一美術の旨に適ふよしあらん歟讀者はおのづから感ずる所あらん

## ○巣守の妻　第壹回

年の比三十七八の細君蝙蝠傘をさしのざして「モシ〳〵そこへ被爲往ますは小杜さんの奥さまではございませんか」○斯樣に突然に呼び掛られて俄に立どまりて振り返るは年比四十八九。五十ばかりなるべし色白く人品よく衣服も醜くからず

被倣したるが正しくあまざかる鄙里人と思しく小さな根の高い丸髷をば頭の頂に安置したるありさま宛然猿芝居の「お弓」のやうなり仔細らしく頭を傾け日傘をふりかたげて背後へふりむき屢々最前の婦人を見やりて未だ一言だもいひ出ざるに此方は此時しも進み寄りて「寔に久濶でございますそのゝちお替りもございませんで…何時御出京なさいました「チヤ失禮をいたしました貴婦は瀧口さんの…寔にマア」互ひに定式の口儀挨拶。ひとまづ段落となりけるとき以前の細君は四下を見かへり「幸ひのあの氷屋途中でお話もできませんから兎も角もあの店へ」と二個つれだちて氷屋の肆口。やがて相向ひて腰打掛れば(亭主)被爲入まし被爲入まし何をさしあげますあソレお民ソレお煙草盆を」○亭主がまめ〳〵しく愛想がるに甚だ釣合ぬは少侍婢なり齢は二五あまり十六にやなるらん面圓く色白く眼鼻だちから口元まで極めて愛くるしき容貌姿態。腰もスンガリ柳に似て而も賤しからぬ爪はづれ「テモマア佳い娘」と女中のお客も一寸目をとむるばかりなるを書生が胃袋の凍るも忘れてこゝへ涼しい日に集り來りて無暗に氷飲むも道理ぞかし但し憾むらくは愛想に乏しくお客が店へ來ても「被爲入」もいはねば忙然ケロリカンと突立たるまゝ他の貌



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ばゝり打まもりて居るハ單へに世に慣れぬ故のみにてもわらじ蓋し「山出し」の故にハわらずや。以前の両婦人の前へ來りて「何をあげませう」といひいづる口振。たしかに上方歟尾州名古屋歟いづれその邊から來りしなるべし亭主ハ一個にて甲斐〴〵しく働き「民やソラ「あられ」の御代り。チット「花」ハこれッきりでいゝかい。コレ〴〵そちらのお客さまへあげるンだ。何を云てるンだ「アレさうきやいも。これが「花」きやいも」○此耳慣れぬ田舍言葉に少女の故里もあきらかにしられぬ「あの言語でハ恐れ入る色氣も消滅だト聞えよがしにいふハ扨ても口の惡い書生連中縁故も因緣もない身の上ながらに流石ハ女だけに此方の二個ハ傍で

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

打聞くさへ氣の毒なりと思ひぬ。若き方の細君は言葉を改め「それでは今年の三月に全家御出京になりましたのチヤマア先月のはじめに…アノ旦那さまは…チヤマアそれはマアとんだ事で少しも丸ッきり存じませず定めし御愁傷でございませう何の御病氣で何時ごろから」ト間斷無幕なしの弔詞。こなたはやう〳〵に受答へして「旦那に唐突に死なれましたので…東京へ移轉ました間際でもあり丸きりお知交の方もございませんので寔に妾も狼狽まして倅を大坂から呼び寄せまするやら……」「チ、定めし御子息さまが…定めし新さまが御成人おなり…チホ、、、ヱたくしとした事が定めしお立派な旦那さまに。お成なさいましたでございませうチたしの今年でお廿二でチヤマアもう三にお成なさいますのチエ。自身の取る年には氣が附ませんがほんとに年の經つはチホ、、、早いものでございますヨチエ

## ◎ 雑記

### ○西洋女禮一斑　（前號の續き）

友人の宅にありて禮法上已に相應の時間を經て他の客人來りたるときはその客人の着席するを待ち然るのちに椅子を立ちて主人に別れを告げまた新たに來りたる客に對ひ丁寧に頭禮すべし人の宅を退出んとするときは今少しと抑留らるゝことあるべしといへども一たび椅子を立ちしときはその儘別れ去るをよしと心得べし

また人の宅にありて懷中時計を見んと欲するときは主人に許しを乞ひて見るべし見たるのちはその失禮を謝すべし

人の訪問を受けたるときその家の婦人飾りもの等の針仕事をなし居りしならば殊更らにその仕事を中止して片附けるに及ばずといへども音樂または繪畫等のごとき心を他事に用ゆること能はざるものはすべて中止すべきこととなり

客來の案内を通じたるとき特別に注意を要する客にあらざれば強ち出迎ふるにはよばず婦人はたゞ客の室內に入り來りたるとき椅子を立ち一歩を進みて握手の禮をなしその客の着席したるのち己れの椅子に復すべし

客去らんとして暇を告げ椅子を立ちたるときは共に椅子を立ち客室内を立ち去るまでは決て椅子に就くべからずまた婦人はその客を見送るに及ばずといへども凡そ時を計りて鐘を鳴らし召使ひのものに報に召使ひのものをして送り出ださしむべし



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

婦人にして人を早問せんとするときは相應の衣服を着すべしといへども餘り美服に過ぐべからず然れども馬車にて到るときは歩行するときよりも少し美なる衣服を着くするともよろしかるべし總て衣服のことはのちにいふべし

〔會話の事〕教育もあり才智もある婦人ほど會話のとき談柄多くして辨舌爽かなるものはあらざるなり此事は婦人の心掛くべき事にして社會の交際に熱心なる男子は婦人をして辨舌に達者ならしめんことを勉むべし（記者案ずるに歐洲に於ても男子は常に婦人の交際を助くるの心掛け必要なりと見えたり況して我が邦婦人の交際を開かんとするには男子よりその方に導き可成丈けの助をなさんとするの心掛けなかるべからざるなり）

能く談話せんとするには三つの要用なることあり乃ち「機智」「記憶」および「相當の教育」これなり

總て人は自分の關係の深きことを他の事よりも深く聞き取るものなりと心得べしゆゑに人と談話をなすときその人の氣に適はんことを欲すれば人の母たるものはその子供のことを咄し若き娘には近き頃ありし踏舞會のことを咄し著作者ならばその人の出板するものに就て話し繪師ならばその人の畫を出品したる繪畫博覽會のことを話すべしさてかくその人々によりその人の好むところのものに就て話しをなしたるのちはその人の咄し出すを氣を留めて聞くべしさすればその人の氣に適ふのみならず評判よくなりて交際上の便益そくなからざるべし（記者思ふに凡そ人と交を結ぶには可成人の心持よく愉快を感ずるやう勉むべき事にてこれ取も直さず自ら快愉を感ずるの道なり決して諂らひ阿ねる事と混ずべからず相互ひに心持よからんことを勉むるは交際上肝要の事なり）

○女風改良の論説

時事新報の女風改良に熱心なるは今に初めぬ事にて嚮にも男女交際論といへる論説を掲げて八篇の長きに渉りたるが之れ福澤先生の立案の由にて輯集して丸善より發兌せりその後も婦人に關する論説を掲げたる事一にして足らず玆に其要を摘み同新聞を讀み給はざる方々の一讀に供すべしさて先月十一日にも「婦人の旅行」と題し今の婦人の有樣を見るに家事世事に就て男子の相談相手となるべきもの甚だ少しこれ婦人の位地を卑からしむるの本にして婦人の知見甚はだ狹隘なるが故なりされば女生の知識見聞を開くの急なるは今更ら云ふまでもなき事にてその方法に就ても學校讀書の教育抔も至極要用





Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

の事なれどもろの捷徑を求むれば婦人の旅行もまたその一手段となるべしとて旅行の見聞を富まし經歴を增し交際上の談話に効力あるべしと說けり」また十四日には「婦人の財產」と題し今の男尊女卑を破りて日本婦人の品格を高むるハ婦人の財產權を定むること肝要なるべしと云ひ西洋の婦人と日本の婦人とを比較してその異なるところを述べ財產は權力なりとハ不易の語なり日本婦人の品位を高めて西洋婦人と同樣ならしめんには敎育交際職業等種々の方便あるべしと雖ども今後立法者の注意ゝて法律上婦人の財產權を重んずると又世上の風習に於て遺產分配ゝ男女を區別せず婦人をして往々巨多の財產を管理せしむること最も肝要なりと論せり」又十五日には「婦人の職業」と題して國の文野に拘はらず婦人の位地は尙武の國に卑くして工藝の國に尊し何となれば兵馬の事ハ婦人の天性に堪ふべからざる所なれば婦人は男子に依賴して其の保護を仰がざるべからざれども工藝の事は婦人の伎倆必ずしも男子に讓らざるが故なり然るに今世の中の變遷を見るに文明の進步と共に尙武の風は漸く減じ何れの國とても次第に工藝殖產の事に發達せり左れバ我國に於ても男尊女卑の風を破り婦人をして男子同樣戶外の職業ゝ就しむべしと論じ養蠶製糸寫眞電信產婆產科等女に適する職業多きことを述べたり」

また廿三日より廿六日に涉り男女交際餘論と題し婦人の交際に志さんにハまづ學藝の嗜を緊要なりとの說あれども古來男尊女卑の習慣をなしたる國柄にして女子の敎育も怠りたることなれば今俄にこれを學問の道に導き學藝を以て男子と交際を開かんとするハ容易の事ならざれバ之を外にして容易き交際の方便を求めざるべからず第一談話の種子を作ること大切なるが芝居音曲の評判もよけれど日本の芝居音曲ハ品格尙は高からずして之に伴ふ周圍の風俗空氣の賤しきが故に唯芝居の噂のみにてハ固より以て足るべきにあらず談話の種子を求むるにハ草木を見て本草を談じ金石を弄びて鑛學を語るハ面白けれども學者めきてむつかしと云はゞたゞ花を見るも可なり山水の景勝を探るも可なり地方の婦人ハ都會に遊び都會の婦人ハ田舍に旅行しその見る所聞く所を以て談話の種子たらしめるの室內にあらゆる珍奇物を陳列しおきて談話の種子たらしむるもまた可なり談話の種子を多くして人にも語り人の言を聞ても能く之を合點せんとならバ社會全体の有樣を知りて凡そ其釣り合を辨ゆると尤も大切なり婦人をして世事の思想知見に富ましむるの法も亦必ずしも學校讀書の敎育のみを以て得べ



Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

き事物にあらず今日の要用は家の内外に論なく男子が婦女子に交はるに常に敬愛の意を表して交際一言の間にも之を粗略にせざるにあり婦人は無智なり戸外の事に不慣なりといふは婦人の天性に於て然るにあらず古來の悪風之を然らしめたるものなりまた婦人か交際を開かんとするにはその身に屬する資産あるべからざれば今より後は婦人とても何か職業を求めて如何なる場合に迫るも一身の生計には困ることなきの工風なかるべからずまた婦人の交際は成るべく質素にしてなるべく廣くすべし西洋諸國は日本よりも豊かにして華美なるがゆゑに彼の國上流の婦人社會を見てそのありのまゝを寫さんとするは日本の國力に於て許さゞる所なり况して舊習を脱するは人間の難事にして今日婦人の衣食住を西洋にするとも同時に舊日本の舊套を脱すべきにあらず止を得ず新舊二樣の必要を感して二重の費用に迫らるゝの困難あるべし畢竟其の目的は婦人社會の交際を容易くして廣からしめんとするなれば其の貧富を問はず少しく閑暇あらん人々は手輕に往來會合して心をきなく談話遊戯し男女打交りて互に情交を通じ知らず識らずの間に互ひに知見を交換したしと云ひ酒宴衣服等の事にまで注意を及ぼしてその稿を終りたり

## ◎家政要報

○新明發の竈　桑港のパッドウェルと云へる人は永年の工夫を凝らし今度石油と水を混せ合したるものを以て石炭あるひは炭薪に代用することを得る簡便の竈を發明せりこの法によればこれまでのものと比らべ一圓に付三十錢の費用を減ずると云ふ果して信ならんには厨房の經濟上に益すること多かるべし

○甲斐絹　は昨年織出し人多くして買入少なかりしが爲め五月ごろより非常に下落し一疋につき四圓五十錢ぐらゐなりしゆゑ元方にても引合はずとて織出しを見合せしより品拂底となり近頃俄かに六圓五十錢までに騰貴したるよし

○大工の手間賃　府下大工の手間賃は一日金五十錢のところ今度四十五錢に引下げしとのことなり

○牛肉の直下　追々暑中に向ひては牛鍋の御客の減ずるがゆゑにやまたは肉食家の便利を計りてや（左る御心切はあるまじけれど）此ほど府下の牛肉商は會議を開き牛肉一斤に付一錢もしくは一錢五厘また鍋は一人前一錢方引下ることに決議したるよし



Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

○青物　府下各青物市場に於て胡瓜、茄子は盛んに入荷あるよしにて胡瓜は一錢に大十本小十五本までに下落しまた茄子は壹錢につき大六七箇小十箇位ゐ青梅は此ほどまで一升につき五六錢なりしが三錢五厘に枇杷は一樽につき二十日以前五六錢ぐらゐのものは二割方いづれも下落せりと云ふ右等の品は時節柄の事ゆゑ日にまし下落すべし

○一寸口上　今般この欄を設け家事向きの心得となるべき事を記載する主意にて家事經濟の事に關する翻譯等も揭ぐべきはづのところ編輯員中に更代等もあり旁々手廻り兼候より總て次號に讓り候につき一寸此旨看官に申上をき候

○諸相場の景況　鰹節はこの程土佐新切の初荷入津せしとなるが初相場は十貫目につき六圓五十錢なりしとあろ追々上景氣にて八圓五六十錢に引上けたるよし○酒も少し氣配よろしき方○白米小賣相場は上米一斗二升中米一斗三升一合下米一斗四升二合(六月十七日より)○鹽一圓に付赤穗三俵八分大鹽三俵九分○醬油一圓に付極上一樽より一樽二分上一樽六分中二樽並二樽半○炭一圓に付土釜八俵半九俵半切炭八俵半十二俵○石油一箱に付一圓六十五錢七十三錢にて氣配よろしき方○薪一圓に付上百二十本より百七十五本まで

## ◎御伽草

### ○無言會

演説家三人打寄り閑話の末一人動議を起して曰く我々諸君と共に演壇に登れば雄辯を振ひ友人と會しては討論をなし獨り居るときは書を讀み或は詩を吟じ夜も時として寐語をいひ一日一夜の中言語を斷つの時間幾許もなし實に多辯といふべしナント今宵は諸君と共に徹夜して無言會を開き口をきゝたるものはその罰として明朝他のものゝ靴を磨くべしと定めては如何といひければ一同贊成して三人等しく口を閉ち只目瞬と鼻をすゝるの外なかりけりかくて夜も漸くに更け渡り何となく四邊淋しく人々心細く思ふ折柄一點の洋燈油盡きて今將に消えなんとするに際し忽ち一人聲を發しアレ明りがといひければ傍らの一人ソレ口をきゝたりと咎めしにぞ今一人從容として曰く口をきかざりしものは我れ一人のみと終に明朝に至り三人各々自巳の靴を磨きたりしとぞ

### ○數學問題

(一)噴水器あり一時十五分の間に水六斗を噴出す今此器を以て拾一石五斗二舛の水を竭さんとするには幾時間を費すや



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

(二)時斗あり一晝夜點鐘の數ハ幾何となるや

○廿六號及び廿七號數學答式

九錢のもの　二斤
答拾錢のもの　二斤
拾四錢のもの四斤
備后　藤井惠美子姐

| | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 9 | $\frac{1}{3}$ | | 2 | | 2 |
| 12 | 11 | | 1 | | 2 | 2 |
| | 14 | $\frac{1}{2}$ | $\frac{1}{2}$ | 3 | 1 | 4 |

答
七圓百拾二分九十一
備后藤井惠美子姐

$10\frac{1}{2}\times 9=\frac{189}{2}$

$738\frac{9}{32}-\frac{189}{2}=7\frac{91}{112}$

廿六號考物答(一)ぼたん(二)美濃備后藤井惠美子姐○廿七號燈謎答「虹」傍后藤井惠美子姐朽木角田末智子姐

# ○寄書

○水中に空氣の有無　内幸町　まつ子

貴社益々御繁榮御よろこび申上まゐらせて〳〵卒爾なることながら理學上とづねまゐらする事ころ候らへろハ外ならず水中に空氣わりやの一問題にてさきつころより友だちと種々論つらひ候ひしもいまた何れとも定め兼候より據なく貴社に寄せて世間博學の姫達に質しまゐらしぬ

記者よりこの答をなすべしと思ひたどれも左りてハ興味も薄ければ何れにても證例を擧げて答へ給ハん事を世間の閨秀に乞ふ左らバろの証例の最も適當なるものを本紙に掲ぐべし但し答書ハ可成簡短ならんことを望む

○夏月　東京　長谷川　金子

わすれてハ秋かとぞかりまかふまて涼しかりけり夏の夜の月

○待時鳥　同

むし居して月をまつ乳のゆふぐれよ一聲來なけ山ほとゝきす

○春雨　同

明日よりハ根芹摘まんと處女子か語らふのきにそゝる雨そふる

○待時鳥　同　坂井　和歌子

深山にハ暦なくとも卯のはなのさくとおらすや山ほとゝきそ

○落花吟　同

造化無情甚。空濛恨更長。花開未三日。風雨碎紅芳。

高松冬嶺曰亦是一個落花嘆○坂井石城曰轉末千古金言

○客舍聞子規　坂井　石城

不如歸不如歸。鳴在綠陰深處飛。孤客倚樓獨大息。正是客館夢醒時。四顧寂寥燈欲滅。啼涙點々濕客衣。蜀魂何事啼不歇。不如歸不如歸。

総生寛曰結末佳絶餘情綽々○迷柳醉仙曰一讀欲惱魂

○青砥藤綱　同

のちの世になかく汲めとて滑川照らす燈のけろゆかしき



Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

# 告

今般本誌編輯員の組織を改め東西の學に通じたる二三の學士鉅筆家及び有名なる文學士春のやおぼろ先生を聘し先生得意の新意妙案を以て綴られたる婦女子に關係ある續き話を續々掲載し又先頃英米兩國へ注文致し置たる新聞雜誌の中此度英國よりハ女皇貴女（クヰーンレデース）新聞（ニユースペーパー）婦人重寶雜誌米國よりハ婦人雜誌（レデースジヨルナル）新英國教育雜誌（ニユーイングランドエヂユーケーショナルジョルナル）等相屆き候に付此中より有益なる事ハ素より奇事珍聞に至るまで漏さず譯載し其他紙上の記事に改良を加へたれバ舊に倍し益々愛讀あらん事を乞ふ

又た從來毎週發兌の處今般右の如く編輯員の組織を改めたる等に就てハ員中の都合も有之其他萬般の準備も未だ全く整頓致さず依是を以て當分の內毎月三回の發兌となし遠からずして舊に復すべし且又前に記載せる新着の諸新聞雜誌も本號より譯載致すべきの所譯者の都合により不得止次號より續々掲載致すべくその他本號の編輯上不行屆の廉多かるべけれども次號よりハ一層改良を加ふべし讀者乞ふ之を諒せられんことを


# 廣告

英國貴女ブラッセー女史著述
內國彌八譯述

## 增補 婦人地球週遊記

洋裝精美全一冊定價金七十錢但シ郵稅自辨可仕候

英國ノ貴女ブラッセー女史ハ學識才能共ニ倫頓婦人交際社會ニ名聲ヲ轟カシ婦人ノ泰斗女子ノ龜鑑ト仰ガレシ后我明治九年七月一日自カラ卒先シテ同行ノ衆人ヲ誘ヒ艦船ヲ裝ヒ萬人拍手喝動ノ中ヲ心氣爽然トシテ地球萬國ヲ週遊スルノ途ニ上リ到ル所王侯皇后皇侯紳士貴孃等ノ優待ヲ受ケタリ當時歐洲全般ノ耳目ハ女史ノ一身ニ注ギ三人寄レバ必ズ女史ノ雄壯活潑ヲ賞セザルヿナカリシト云フ本書ハ女史ガ其週遊萬國ノ男女交際男女同權男女主僕ノ有樣ヨリ男女各自ノ風俗男女宴會ノ有樣其佗政治法律生活之摸樣等各國ノ風俗人情ヲ記シ殊ニ我日本ノヿハ深ク女史ノ感覺ヲ惹シモノト見エ日本ノ記事ハ殆ンド全書ノ三分ノ一ヲ占メ我國婦人衣服ノ制頭飾ノ狀ヨリ教育品行及智識ノ程度男尊女卑ノ弊害ヲ詳ニシ之ヲ改良進步セシムルノ法方幷ニ政治法律生活ノ模樣官史等ノ怯懦憶病ナル有樣洋服着方ノ不法ナルヿ及日本ノ未來記等女史ガ才學兼備ノ筆ヲ以テ悉ク明記セシモノニシテ我同胞ノ善シト思フモノヲモ却テ痛ク誹謗スルアリ又惡シトシ思フコトヲモ尚頻リニ賞贊スルアリ記事着々人ノ意表ニ出デ、一度卷ヲ開ケバ喜憂交モ胸裏ニ迫リテ措ク能ハザルベシ乃チ地球萬國ノ珍事奇聞集メテ此書ノ中ニ在レバ苟モ地球上ニ生活スル者殊ニ我日本人タル者就中御婦人達ノ必讀スベキ書ニ御座候付テハ今般弊店ニ於テ發賣仕候間陸續御注文奉願上候

東京日本橋區本石町二丁目
發兌元 上田屋
賣捌所 博文本社 兎屋 鶴聲社 泉市

●繪本 **徳川家十五代記** 西洋綴全一冊頗美本●紙數五百ページ余●定價金二圓●今回一千部限無類特別大安賣五十五錢●府外郵稅廿六錢

發賣本舖 大阪今橋堺筋東入南側 浪花屋本店



發行所 東京京橋區南鍋町貳丁目拾壹番地 績文舍
持主兼印刷人 松本義弘
編輯人 初鹿野銻五郎



女學叢誌大賣捌
東京芝區愛宕町一丁目三番地 修正堂
同 神田區淡路町 巖々堂
同 神田區佐柄町廿一番地 東海堂




Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY